

①Int.Cl.
E 04 B 1/343//
E 04 H 1/02
E 04 H 1/12

②日本分類
86(4) A 44
89(1) A 11
89(1) A 9

⑨日本国特許庁

⑪実用新案出願公告

昭51-20091

実用新案公報

⑭公告 昭和51年(1976)5月26日

庁内整理番号 6536-22

(全3頁)

1

⑩キヤビネットハウス

⑪実願 昭46-81500
⑫出願 昭46(1971)9月8日
公開 昭48-37904
⑬昭48(1973)5月9日
⑭考案者 西脇凡夫
堺市上野芝4の550の9
⑮出願人 大同鋼板株式会社
尼崎市杭瀬字午新田22
⑯代理人 弁理士 石田長七

⑭実用新案登録請求の範囲

2枚の鋼板間に硬質ウレタンをサンドイッチしたパネルの側端に一連の突起を設けるとともに他側端に一連の凹みを設け、突起に他のパネルの凹みを嵌合してパネルを連続的に組み合せて壁と屋根とを形成し、壁と屋根との両妻に環状溝型フレームを設け、環状溝型フレームの下部間に床組部材を設けるとともに環状溝型フレームに各々環状の開口部ユニットを設け、環状溝型フレーム外端と環状の開口部ユニットの外端とを環状コ字型締め枠にて締付け、両妻の環状溝型フレームを連結具で連結するようにして成るキヤビネットハウス。

考案の詳細な説明

本考案は2枚の鋼板間に硬質ウレタンをサンドイッチしたパネル1の側端に一連の突起2を設けるとともに他側端に一連の凹み3を設け、突起に他のパネルの凹みを嵌合してパネル1を連続的に組み合せて壁4と屋根5とを形成し、壁4と屋根5との両妻に環状溝型フレーム6を設け、環状溝型フレーム6の下部間に床組部材7を設けるとともに環状溝型フレーム6に各々環状の開口部ユニット8を設け、環状溝型フレーム6外端と環状の開口部ユニットの外端とを環状コ字型締め枠9にて締付け、両妻の環状溝型フレーム6を連結具10で連結するようにして成るキヤビネットハウスに係るものであつてその目的とするところは組

立施工が容易で断熱性に富み、重量がさわめて軽いキヤビネットハウスを提供することにある。

本考案を実施例により詳述する。パネル1の側端に一連の突起2を設け、他側端に一連の凹み3を設ける。パネル1の突起2が他のパネル1の凹み3と嵌合するように設けてある。パネル1は硬質ウレタン11の外面を鋼板12にて被覆してあって、鋼板12の端部が第4図に示すように突起2及び凹み3に埋込まれ、突起2及び凹み3の硬質ウレタン11部分に薄シート13が接着してあり、形状としては第4図に示すごとく平状パネル14と湾曲状パネル15とがある。硬質ウレタン板1を複数個連続的に組み合せて壁4と屋根5とが形成してある。第2図に示すように壁4と屋根5とには平状パネル14が用いてあり、壁4の下端部及び壁4と屋根5との連続部には湾曲パネル15が用いてある。硬質ウレタン板1の組合せのさい突起2及び凹み3にシーリング材16を注入して組合せてある。壁4と屋根5との両妻に環状溝型フレーム6を設ける。環状溝型フレーム6の環状溝17にパネル1の両端がそれぞれ嵌合していて、嵌合にさいしては環状溝17にシーリング材16が注入してある。環状溝型フレーム6の下部に床組部材7を設ける。床組部材7は第3図に示すように土台用鋼材18に大引用鋼材19を固着し、大引用鋼材19に根太用鋼材20を載設し、根太用鋼材20に波形鋼材21を載設して構成してあり、床組部材7の波形鋼材21の上に床材22が設けてある。環状溝型フレーム6に各々環状の開口部ユニット8を設ける。この場合開口部ユニット8の外端には第3図に示すように環状キャップ23が周設してあり、環状溝型フレーム6と環状キャップ23とを環状コ字型締め枠9にて締めつけて開口部ユニット8を環状溝型フレーム6に取付けてある。環状コ字型締め枠9を取りはずすだけで開口部ユニット8を色々な開口部ユニット8と交換することができるよう設けてある。第1図中24は開口部ユニット8に突設されてい

2

3

るテラスユニットであり、テラスユニット24の側面、上面には幌シート25が張設されている。各環状溝型フレーム6が強固に連結されるように環状溝型フレーム6の上部間に連結具10を設け、連結具10にて各環状溝型フレーム6を連結してある。

本考案はパネル1に一連の突起2を設けるとともに他側端に一連の凹み3を設け、突起に他のパネルの凹みを嵌合してパネル1を連続的に組み合せて壁4と屋根5とを一体的に形成するように設けてあるから簡単な組立施工によつて壁4と屋根5とを成形することができるという利点があり、パネル1が硬質ウレタン11と鋼板12にて成形してあるから断熱性に富み、重量が軽くて強度の強い壁4と屋根5とを成形できるという利点がある。また壁4と屋根5との両妻に環状溝型フレーム6を設け、環状溝型フレーム6に開口部ユニット8を設けるようにしてあるから簡単な構成で開口部を成形できるものであり、しかも環状溝型フ

4

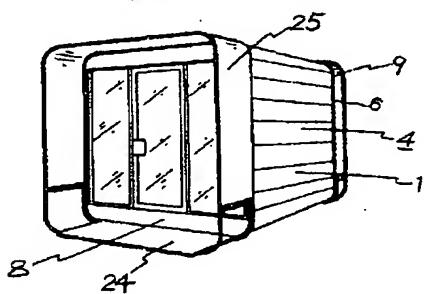
レーム外端と環状の開口部ユニットの外端とを環状コ字型締め枠にて締付けあるので、環状コ字型締め枠を取りはずすだけで開口部ユニットを色々な開口部ユニットと交換できるという利点があり、更に両妻の環状溝型フレームを連結具にて連結してあるので環状溝型フレーム同志を確実に連結できるという利点がある。

図面の簡単な説明

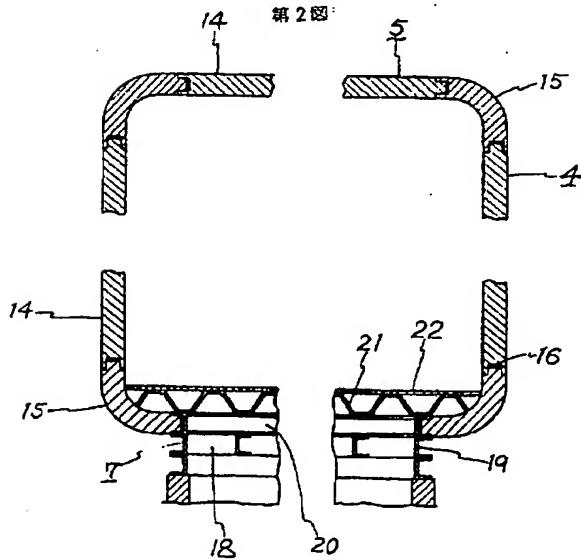
第1図は本考案キヤビネットハウスの斜面図であり、第2図は同上の一剖面図であり、第3図は同上の一剖面図であり、第4図a, bはそれぞれ同上の一剖面図である。

1はパネル、2は突起、3は凹み、4は壁、5は屋根、6は環状溝型フレーム、7は床組部材、8は開口部ユニット、9は環状コ字型締め枠、10は連結具、11は硬質ウレタン、12は鋼板である。

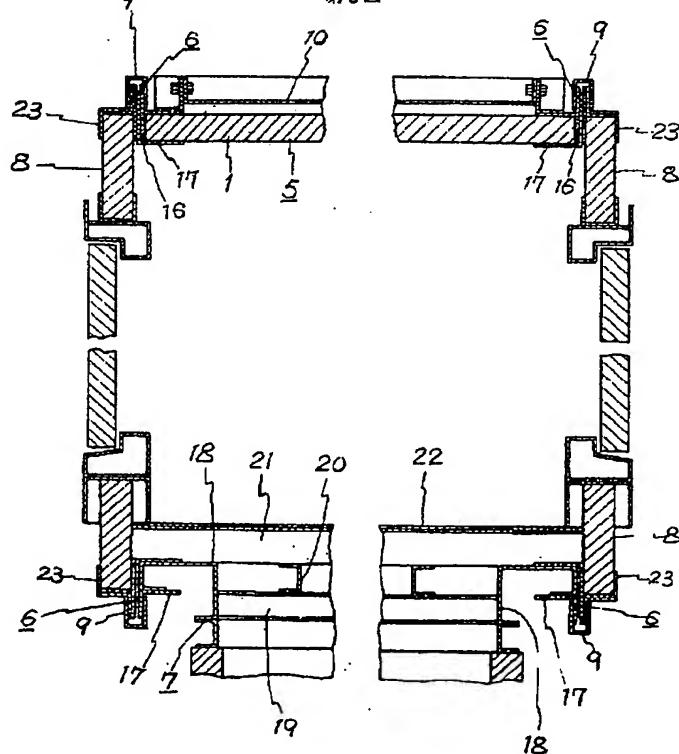
第1図



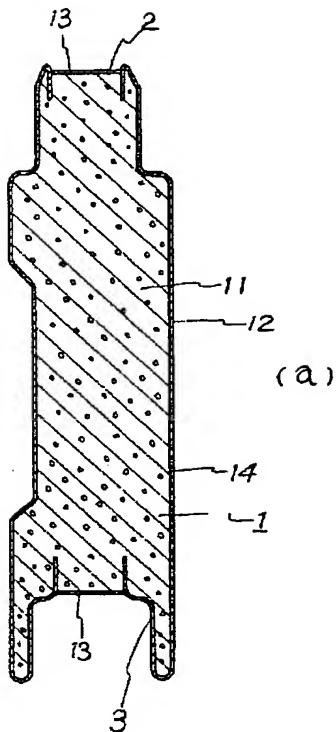
第2図



第3図



第4図



第4図

